

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：2 年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

私がこの留学に参加した理由は、長い春休みを有効活用したいからであった。同時に、フランス語が向上出来て、違う文化に触れることが出来たらいいなといった具合で、フランスに対して熱い情熱などは特に持っていなかった。しかし、フランスに1か月生活して、私の中のフランスの印象ががらりと変わり、行く前にはなかった情熱がふつふつと生まれることとなった。

まず、フランスに来て一番印象に残っていることは、どのフランス人もとても親切だということだ。説明会の際に、「フランスの人はあちらから距離を縮めることはあまりない」と言われ、勝手にフランス人は冷たい人たちだという認識を持っていた。しかし、実際は全くそんなことがなく、むしろ温かい人たちだと感じた。友達といったレストランでは、店員さんが不親切の事のほうが少なかった。むしろ、どのお店でも、どんなに混んでいても愛想よく、親切に対応してくれた。また、カフェで隣に座っていたムッシュとマダムが店の缶バッチをくれるなど、優しさあふれる街であった。また、日本のアニメキャラクターを道中でよく見かけた。実際日本のアニメや漫画を好きなフランス人も多く、日本の誇らしい文化がほかの国とのつながりを強めていることを身をもって体感できた。

次に印象に残っていることは、フランス人は日々の生活を楽しんでいたということである。街中で、走って急いでいる人など見たことがなかった。それよりも、みんながゆつくりと休日を味わっていた。寒くても、朝からテラスでおしゃべりを楽しむ大人や、金曜日に友達を呼んで、ダンスをして、食事を楽しんでいるホストファミリーを見て、人生の充実度がとても高い国だということを感じた。誰よりも、一番大人が人生を楽しんでいて、街でストレスを抱えることが日本にいるときよりも少ないように感じた。一度、日本の最低賃金とフランスの最低賃金、税金の金額などの違いをホストファザーに教えてもらったことがある。フランスは日本に比べて働く時間が少ないにもかかわらず、取得が多く、経済的な理由が生活にも影響を与えているのだと感じた。私はその話の際に、自分が日本がどのような経済状況なのかを、全く把握していなかったことがとても恥ずかしかった。日本が税金を多くとられる理由や、その使い道などを全く説明できず、ただムッシュとアレクサの検索結果を聞くことしかできなかった。文化や社会状況の違いがとても面白く感じたと同時に、文化の違いを自らの言葉で説明できるようになりたいと強く感じた。この留学を通して、わからないことがあったら、自らフランス人に聞くなど、自主的に動く力がとても身に付いた。そして、文化を学んでいるだけでは、気づくことが出来ない発見や現地の人と関わって初めてわかる温かさなど、自分が今まで学んで来たことは、ほんの一面でしかなかったことに気づいた。そうした、多面的に見る重要性を改めて考えることが出来た。

また言語の面では、自分が持っている単語で、言葉で、意思を伝える術を身に付けることが出来た。しかしこの留学を通して圧倒的にボキャブラリーの少なさ、リスニング力の弱さを実感した。この留学をしたことに満足をするのではなく、この留学を通して、自分の弱いところを強化し、より言語能力向上に努めたいと考える。またフランスに行ったときは、日本の文化や社会問題などをもっと自分の口から説明できるようになること、そして、英語での説明ではなく、レストランでも全てフランス語で対応することが出来るようになりたいと考える。

私は、大学でフランス語を学んでいた時、大した目標も持っていなく、なんとなく「かっこいいから」というだけで、フランス語を学んでいた。しかし、この留学を通して、違う文化に触れることやお互いの国の文化を共有することの楽しさを知った。そして何より、日本語だけ喋れるだけではいけない、と漠然と思った。フランス語を強化し、もっといろんな文化や社会、人を知りたいと、強く思うことが出来たのは間違いなく、この留学が大きい。私がこの留学を通して、一番得た大きなものは、これからの言語へのモチベーションだと感じる。何かを必死に学びたいと思えたことがこの留学で一番大きな収穫だと感じた。